

現代中国語“了₁”をめぐる未解決問題

Some unsolved problems related to “le₁” in Mandarin Chinese

町田 茂

Shigeru MACHIDA

1. はじめに

中国語の動詞付加成分“了₁”をめぐるのは、それが動詞接尾辞なのか動態助詞なのか、文法的意味は完了なのか実現なのか、完了・既実現の事態に“了₁”を用いない場合を省略と見なすべきか否か、等々に関し多数の研究結果が発表されてきた。しかし、そうした論説には多くの未解決問題が残され、定説が形成されたとは言い難い。定説形成の困難は中国語文法の研究方法そのものに起因するとも考えられ、これまで前提とされてきたいくつかの論点について再検証が必要である。本稿は、「中国語にはテンスは存在しないがアスペクトは存在する」というほとんど定説として定着しつつある前提から再検証を行い、中国語の言語事実をより反映した文法記述の方法論を構築するための提案を行おうとするものである。以下に引用する先行研究で“了”と表記されるものは、本稿の“了₁”に相当する。

2. 中国語にテンスは存在せず、アスペクトは存在するという前提について

2.1 先行研究

中国語に文法範疇としてのテンスは無く、アスペクトは存在する、という前提は、これまで多くの研究者によって支持されてきた。中国では王力 1985『中国現代語法』が以下のように述べている。

時間的表現、大多数族語は有る、然而各族語對於時間的看法却不相同。大致說來，人們對於事情和時間的關係：第一，着重在事情是何時發生的，不甚問其所經過時間的遠近，或長短；第二，着重在事情所經過時間的長短，及是否開始或完成，不甚追究其在何時發生。前者可以羅馬語系（法語，意大利語，西班牙語等）為代表，後者可以中國語為代表。（王力 1985：151）

日本においても、木村 2006 は以下のように論じている。

中国語がテンスをもたない言語であることは既によく知られている。「父は今北京で働いている」「父は昔北京で働（いて）いた」「父は来年北京で働く」をそれぞれ中国語で言い表すと、(1) のように、語彙形式である時間詞（下線部）の部分を除いて、述語の形はすべて“在北京工作”[北京で働く]となる。

(1) 爸爸 現在 / 以前 / 明年 在 北京 工作。

父 今 / 以前 / 来年 ～で 北京 働く

「働いている」、「働いていた」、「働く」、いずれの場合も動詞は“工作”であり、現在・過去・未来の区別を言い分ける文法的な手段というものが何ら存在しない。中国語は紛れもなく無テンス言語である。

一方、アスペクトについては、いくつかの文法形式の用法を根拠に、中国語は文法範疇としてのアスペクトを有する言語であると、これまた広く認められている。なかでも、＜持続＞を表すとされる“着”と、＜完了＞を表すとされる“了”は、ともにアスペクトを担う中核的な要素としてこれまでに多くの研究者の関心を集めてきた。中国語のアスペクトは、この2つの動詞接辞を典型的な成員とし、この2本柱に若干数の文末形式や動詞接辞的な形式が加わって1つの体系的な文法カテゴリーを構成しているという認識が、明に暗に現代中国語の数十年に亘る文法研究の歴史の中で

広く共有されている。（木村 2006：46）

文法カテゴリーという用語を厳密に解釈するなら、中国語には、過去・現在・未来といった時間的位置と一対一に対応した形態素は存在せず、中国語はテンスを持たないという結論は揺るがない。しかしその一方で、中国語には、特定の文法形式や副詞が特定のテンス情報に対応するという現象が確実に存在する。

2. 2 過去～現在に用いられる文法形式

(a) 動詞＋“得”＋形容詞・動詞など（状態補語）：“他走得很累。”など

(b) 名詞＋“的”＋動詞／性質形容詞：“不顾家人的劝阻”など

(c) “是～的”構文：“我是坐地铁来的”など

これらは、発話時点までに発生している事態に対して用いられる。

2. 3 未来に用いられる文法形式

(d) 動詞＋“个”＋形容詞：“玩几个痛快”など

(e) 動詞＋“个”＋名詞：“签个字”など

(f) 動詞＋“一个”：“笑一个”など

これらは、発話時点以降に発生する事態について、願望や意思の表明、軽い命令などに用いられる。近似した意味機能を有する(a)と(d)が時間的位置において対立することは興味深い。さらに、(a)～(c)のいずれもが中核的アスペクトマーカースとされる“着”“了₁”を排除することは、文法カテゴリーとしてのアスペクトの有効性の限界を示すものと言えるのではないか。

2. 4 時間的位置を示す機能を有する副詞

以下の副詞は、時間的位置に関する情報を内包している。

(g) 過去（発話時点を基準とした過去）：曾经 曾 终于 一度

(h) 過去（発話時点以外の参照時点を基準とした過去でもよい）：已经 已 早已 早就
刚 刚刚 才

(i) 未来：迟早 早晚 快 快要

これらの副詞を用いると、他に時間名詞を用いなくても過去や未来という時間的位置を示すことができ、しかも、アスペクトマーカースを必ずしも必要としない。

(1) 据说音乐家莫扎特曾经遇到这样一件事情。一个黑衣人找到他，…

(2) 金鱼胡同东段在当初建王府饭店时已经打通。

特に(2)は「王府ホテルを建設した際金魚フートンは既に直線化が行われていた」という過去完了であるが、完了のアスペクトマーカースは出現しない。また、アスペクトマーカースを用いた場合にも、これらの副詞がしばしば呼応するかのようによ用いられる。

(3) 笔者对这一问题曾经做过认真的调查研究。

(4) 看来这样做已经成了她的习惯。

副詞とアスペクトマーカースの共起のしやすさは個々の副詞によって異なるため、ここでの詳述は避けることにする。

中国語にアスペクトを担う動詞付加成分が存在するとの主張は有効であるが、「テンスは無くアスペクトは存在する」との前提によるアスペクト論は、先に挙げた文法形式の持つ時間情報、副詞が有するテンス・アスペクトにまたがる時間情報、アスペクトマーカースと副詞の呼応の用法、といった一連の事実を軽視する結果に至ってはいないだろうか。中国語に明確な語形変化が存在しないことは事実である

が、情報機能の必要から、特定の語彙の使用が強く求められるという現象は存在する。こうした事実には忠実な文法記述が今後の中国語研究の大きな課題だと考えられる。

3. “了₁”の文法記述の課題

3.1 “了₁”の文法的意味

“了₁”の文法的意味に関しては、完了、完成、実現などの諸説が発表されているが、それらを厳密に定義することは容易ではない。もし「完了」を、「当該動作が終了した段階にある」と理解した場合、以下のような用例には別途説明が必要になる。

(5)a 他写了一封信。

b 我昨天写了一封信，可是没有写完。

(朱庆祥 2014:135 における Soh and Gao 2006 からの引用)

(6) 彤彤在门上贴了一副春联。

(7) 门上贴了一副春联。

(8) 大家又都笑了起来。

(5)a は「一通の手紙が完成した」と解釈される。しかし、b のように「昨日の手紙を書くという動作は終了したがその手紙は完成していない」という場合にも“了₁”は適合できる。(6) は「春联を貼る動作が完了した」と解釈できるが、(7) は貼る動作が完了した後の門に春联が貼られた状態に着目している。一方(8) は“了₁”と起動相とされる“起来”が共起しており、“了₁”を完了とする解釈と衝突する。

(7) については、「動作は完了しており、貼られた状態への関心は存現文という文法構造によってもたらされたものである」と説明することもできる。しかし、(5)b や(8)を見ると、“了₁”の意味に一定の不確定性が存在することを認めざるを得ない。¹⁾

3.2 “了₁”を付加できる動詞[句]について

木村 1997 は“小王过了独木桥”と比べて“找了独木桥”“看了小说”“弹了钢琴”“下了围棋”“等了老李”は不自然と指摘した上で、“了”が理想的な完了表現を構成するにあたって、“了”と結びつく述語形式は[+限界性]もしくは[+変化性]という特性を備えていることが要求される」と述べている。さらに木村 2006 は、同論文中的(5) 小李包了一百个饺子。(19) 小李包完了饺子。を根拠に以下のように指摘している。

英語の完了形などとは異なり、LEvs²⁾は、一般に、共起する動詞または動詞句が語彙的もしくは統語的に何らかの限界性を示す要素を備えていることを要求する。(5)と(19)では数量表現の“一百个”と結果補語の“完”が明確な限界性を示しているが、これらの表現を伴わない“^{??}小李包了饺子”だけでは<完了>表現としての座りが極めて悪い。翻って、明確な限界性を備えた動詞や動詞句を用いて既実現の動作を表す場合は、LEvs を落とせない。“小李包一百个饺子。”や“小李包完饺子。”だけでは、既然の動作、即ち<完了>を表す独立文としては著しく安定を欠く。つまり、北京官話における<完了>表現とは、限界性の動詞(句)とLEvs の協働(collaboration)によって成り立っている。限界点があってこそその<完了>であり、<完了>である以上は限界的でなければならない；限界点なしに<完了>はあり得ない。普通話同様、北京官話における<完了>の認識とはそうしたものである。(木村 2006: 56)

これは“了₁”を付加できる動詞[句]に限界性という特徴を指摘した重要な論考であるが、いくつかの点で再検討が必要だと考えられる。

まず、“小李包一百个饺子。”や“小李包完饺子。”が「<完了>を表す独立文としては著しく安定を欠く」のは、“小李包饺子。”と同様、時間的位置づけに関する情報を持たない動作動詞は未然と解される傾向

が強く、解釈における文脈依存性が高いためだと考えられる。ただしこれはあくまでも傾向であり、一定の条件の下では、限界性の動詞句が“了₁”を付加しないまま既実現を表す安定した表現を形成することがある。

(9) 他送给我一样礼物。

授与を表す“送给”は主語が三人称、間接賓語が一人称という条件の下では、“了₁”を付加しないまま既実現を表す安定した表現となる。限界性を持つ動詞[句]がどれだけ“了₁”を必要とするかは、こうした細部の差異を内包している。

次に、もし“小李包了一百个饺子。”が安定した独立文だと解されるならば、それは“一百个”という数量情報の際立ち(saliency)に依るところが大きいと考えられる。「百個もの餃子を包めば、一区切りの労働として認定できる」といった生活観がこの表現の安定性を支えていると言ってもよい。もしこれを

(10)? 小李包了一个饺子。

とすると、家事の常識に照らして餃子一つを包むことは中途半端な労働であり、一つを包む理由やその前後の状況などが説明されないと、聞き手は納得できないのではないだろうか。

“小李包完了饺子。”中の“完”は一定時間継続した動作が終了という段階に至ることを表す結果補語であり、限界性の動詞[句]と“了₁”のcollaborationが生じているように見えるが、その一方で、“了₁”は“完”と対照的に起動を表す補語“起”とも共起する。

(11) 下午3点多, 天空下起了雨。

(12) 这些来自南昌二中的学子们在游玩了一个多月的暑假后, 又卷起书本来到这一幽静之地, 念起了古典小说。

(13) 巴老和客人一道端起盘子, 拿起银叉, 乐滋滋地吃起了蛋糕。

(14) 演员们刚坐下, 沂水县老干部艺术团就载歌载舞, 演起了《欢迎艺术团》。

(11)～(14)において仮に“了₁”を用いず「動詞+“起”+名詞」とすると、後接句を要求する安定度の低い表現になってしまう。“了₁”を用いずに話を区切るためには、“下起雨来”“念起古典小说来”“吃起蛋糕来”“演起《欢迎艺术团》来”といった形にすることが求められる。

その一方、(11)～(14)との比較において“小李包完了饺子。”の方が独立文としての安定度が高い可能性は否定できない。その原因は、“完”が話し手・聞き手共に予期しやすい動作、典型的には、話し手も聞き手もその存在を認識しているある動作が終了の段階になったことを表す点に求められる。“小李包完了饺子。”は、話し手も聞き手も“小李”が餃子を包むであろうこと、または既に包み始めたことを認識している状況の下で、その動作が終了したことを伝えるものであるために、独立文として受け入れやすい。一方(11)～(14)中の「動詞+“起”」は新情報として提示されているために、それが情報としての価値を有するための前提や補助的情報の必要性が高い。

非限界の特徴を持つ「動詞+“起”」と“了₁”が共起することは、木村2006の「北京官話における<完了>表現とは、限界性の動詞(句)とLEvsの協働(collaboration)によって成り立っている」との指摘の有効性を疑わせるものであるが、歴史的に見ると、「動詞+“起”+“了”」は比較的新しい用法である。明清白話小説の言語において、「動詞+“完”+“了”」の用例は大量に存在するのに対し、明らかに起動だと解釈できる「動詞+“起”+“了”」の用例はごく僅かである。清末民国期の白話報でも用例はごく僅かで、起動としての「動詞+“起”+“了”」が普通話として広く用いられるようになったのは20世紀半ば以降ではないかと思われる。

付言すると、“完”と同様に限界性を持つ“过₁”を用いた(15)は独立文としては極めて座りが悪い。

(15)? 小李吃过了饺子。

これは、“过₁”が時系列的に連続する複数の事態の前半部分を示す機能を有するため、限界性を持つ

動詞[句]と“了₁”の共起が必ずしも当該の表現を文として独立させるものではないことを物語っている。

また、「動詞+“了₁”+名詞」が語感上独立し安定した表現になりにくいことはつとに知られているが、限界動詞と非限界動詞の間で安定度にどれだけの差異が認められるかは明言しにくい。

(16)a ?? 小李到了家。 b ?? 小李进了门。 c ?? 小李回到了家。

(17)a ?? 小李看了电视。 b ?? 小李弹了钢琴。

中国語のいわゆる文は、複数の述語性フレーズの連続体（いわゆる連動構造や複文）を基調としているため、(16)や(17)は特定のコンテキストを与えられなければ独立した文としては安定せず、独立するか否かという語感の判断は、それを用いる場面を想像しやすいかどうかという経験上の判断に依るところが大きい。もし中国語の文は複数の述語性フレーズの連続体を基調とするとの観点を採用するなら、非限界動詞に“了₁”を付加した用例は多数存在する。

(18) 我回想起十年前，我头一回看见他的时候，他也是那么一站，一张嘴，一行诗句，一个手势，我就疯了，疯了似地爱上了他，当时不止我一个，我知道在场的姑娘，乃至妇人，几乎都爱上了他，可他后来竟属于了我，或者说我竟属于了他，我真幸福，真幸运！

(19) 全程负责招募工作的杨绍伟已经有点怕了频频作响的手机，因为每一个电话的后面，都是一颗不忍伤害的热心。

(20) 根据《中华人民共和国进出口商品检验法实施条例》的有关规定及试行中存在了问题，现将经过修订的《进出口商品免验办法》印发给你们，请认真贯彻执行。

(21) 如今，梁思礼与妻子麦秀琼已共同生活了40多年，两人是一对恩爱夫妻。麦秀琼不仅料理家里所有人的生活，而且十分理解和支持梁思礼的事业，受老伴儿的影响，也懂了不少有关航天专业的知识，退休后便成为梁思礼得力的“家庭秘书”。

明清白話小説でもすでに“有了银子”《禅真后史》，“教他姓了郤，叫做郤甄福”《八洞天》，“我哥哥已经是跑了，就是怕了你咧！”《施公案》などの用例が見られるが，“属于了”は20世紀後半以降に用いられるようになったものと考えられる。

ただし、非限界動詞への“了₁”の付加は無制限に行われるわけではない。“属于了”は用いられるものの“*等于了”は用いられず，“*是了”も“了₁”の用法としては成立しない。限界動詞に比べ、非限界動詞への“了₁”の付加が一定の制約を受けていることは明らかである。また、既実現の事態を述べる時“死”“贏”などに“了₁”が義務的に付加されるのに対し、非限界動詞への“了₁”の付加は必ずしも義務的ではなく、「限界・非限界」という区別が“了₁”の必要性にかかわっていることは認めておかなければならない。「限界・非限界」という基準による説明の歯切れの悪さは、“了₁”を義務的に付加する限界動詞も“了₁”を完全に拒否する非限界動詞も少ない点にある。

3.3 “有界”“无界”をめぐる

沈家煊 1995 は、中国語文法における有界・無界の区別の有効性を指摘した極めて重要な論考である。

我们认为，数量词对句法结构的制约作用实际上体现了人类认知上“有界”(bounded)和“无界”(unbounded)这样一种基本对立。人们感知和认识事物，事物在空间有“有界”和“无界”的对立；人们感知和认识动作，动作在时间上有“有界”和“无界”的对立；人们感知和认识性状，性状在“量”或程度上也有“有界”“无界”的对立。人类认知上的这种基本对立必定会在语法结构上有所反映，语法分析的一个任务就是要把这种反映揭示出来。(沈家煊 1995:368-369)

これによると、

(22)a *吃了苹果 b 吃了一个苹果

においてaは「有界+無界」、bは「有界+有界」で、bの容認可能性が高いことになる。

(22) を見せられた時の母語話者の語感だけを根拠とするなら、(22a) より (22b) の方が安定性が高いことに異論の余地はない。しかし、何の前提もなく (22b) を単独で用いることは通常の言語生活では考えにくく、(22) における可否の判断はあくまでも直観としての話者の語感の反映である。言語研究の方法論として、干渉要素を排除した理想的環境における検証結果を基軸に据えようとする立場があり、この立場から見れば (22) における可否の判断は中国語の記述において基軸に据えるべき検証結果と言える。その一方で、discourse grammar の立場から見れば、中国語の文は複数の述語性フレーズを並べることを基調としており、こうした環境では「有界・無界」の組み合わせも十分許容される。

(23) 我吃了苹果，又吃了梨。

また、文法における「有界・無界」と事象における「有界・無界」は必ずしも一致しない。「動詞＋“了₁”」を有界と認定した場合、(7) (8) 以外にも、以下のような場合に事象との間に齟齬が発生する。

(24) 我在东京租了一间公寓。

(25) 他养了一条狗。

文法分析で (24) (25) を有界と認定したとしても、賃貸・飼育の行為は発話時点においても継続しており、さらに未来まで継続する可能性は十分考えられる。もちろん賃貸・飼育といった行為は永続するものではないが、もし永続しない事象を全て有界だと認定したら、無界の事象を認定することは極めて困難になり、有界・無界を区別する意義そのものが失われる。

こうした事実は、中国語文法の基底を形成する原則としての「有界・無界」の区別の有効性に一定の限界があることを示していると言えよう。一方、黄南松 1994 は、(26) (27) を独立文として認めた上で以下ように指摘している。

(26) 他吃了毒药。

(27) 他们取得了胜利。

只有当“动+事物名词”表示非经常性的或抽象的动作时（如“吃毒药、加入民盟、取得胜利”），“了₁”才能作为完句成分具有成句作用。（黄南松 1994:443）

複数の述語性フレーズの連続体を文の基調とする中国語において、単独の述語形式を独立文として容認させるには、それなりの際立ち（saliency）が必要である。これは、中国語文法の基底を形成する原則としての情報機能の重要性を示す重要な事実だと言える。先に見た“小李包了一百个饺子。”が独立文として成立するなら、それを支えるのもこの際立ちによってもたらされる reality である。

3.4 “了₁”と実現・未実現をめぐる

“了₁”を完了・実現と認定する立場から言えば、完了済み、実現済みの動作・行為を表す動詞 [句] には“了₁”が付加され、未実現の動作・行為を表す動詞 [句] には“了₁”が付加されないはずである。しかし、動作・行為の実現が見込まれる以下のような場合にも“了₁”が用いられる。

(a) 条件を提示する場合

(28) 等我发了奖金我请你吃饭。

(b) 事態の発生を予測して、それに対する評価を表明する場合

(29) 这事儿你得找对了人。

(c) その動作を行おうとする意思を強く意識した場合

(30) 你买了它吧！

一方単に事態の発生を予測するだけでは“了₁”を用いることはできない。

(31) a *后天这个时候他就到了北京。

b 后天这个时候他就到北京了。

「中国語にはテンスは無いがアスペクトは存在する」と主張する論考はしばしば (28) のような条件句

を用い、未実現の事態の完了・実現に対して“了₁”を用いることを指摘する。しかし(31a)は、未実現の事態における“了₁”の使用が、単に完了・実現といったアスペクチュアルな意味機能に依拠しているのではなく、広義での mood の影響を受けることを物語っている。

一方、実現済みの事態であっても、必ずしも“了₁”を義務的に用いるわけではない。木村 1997 は“了₁”を用いる文を存現文、行為叙述文、過程描写文に三分し、次のように指摘している。

ひとまとまりの独立的な出来事を伝える存現文と行為叙述文のタイプでは、“了”を用いずに実現済みの出来事を表すことが一般に困難であるのに対して、前後の文と結束して一連の動きや変化を描き上げる過程描写文のタイプでは“了”の省略もあり得る(木村 1997: 176)

存現文と行為叙述文がどれだけ明確に過程描写文から区別できるかには検討の余地が有るが³⁾、発話現場に強く依存する対話を除くと、中国語のいわゆる文は過程描写文を基調としている。

(32) 我打开窗户趴在窗台上和他们说话。

(32) は既実現の事態であると解釈されるが、これを個々の述語性フレーズに分解した(33)～(35)は、話者がこれから何をするかを表明するという mood の下で独立した表現として受容される。

(33) 我打开窗户。 (34) 我趴在窗台上。 (35) 我和他们说话。

(33)～(35)は情報量が少なく、これらを独立した表現として受け入れるには、「話者の意思表示」という mood の存在を認める必要が生じる。一方(32)は一連の動作の間に関連性が認められ、場面の変化を一つ一つ丁寧に追っていくような reality が存在する。そしてこのような reality が、(32)に実現済みという暗黙の了解を与えているものと考えられる。

現場としての reality が感じられる表現に“了₁”が用いられないという現象はこれだけに留まらない。

(36) 你看看你自己把自己搞成这个样子。

(37) 你为什么突然问这个？

これらは、現場で生じた事態に対する話し手の直接的反応である。⁴⁾

4. アスペクトを内包する文法記述の構築に向けて

本稿は“了₁”の記述における未解決問題を中心に論じてきた。その目的は、“了₁”のアスペクト論上の位置づけを再検討しようということではない。2. で論じたように、「中国語にはテンスは無いがアスペクトは存在する」という前提が、中国語の構文や語彙の中にテンスやアスペクトの代替手段になり得る情報が含まれていることへの関心を薄れさせてきた。また“了₁”の文法的意味や“了₁”を付加できる動詞[句]の範囲には一定の不確定性が有り、“了₁”に着目したアスペクト記述は大きな困難を伴う。ここで仮により明確な表現による中国語のアスペクト記述を望むなら、“着”“过”など意味機能や用法が比較的明確な要素を典型的なアスペクト標識と見做し、“了₁”を非典型的なものとして見做すような方法が考えられる。しかしその一方、(9)(16)(17)(26)(27)(32)(36)(37)等の検討を通して、中国語においてある表現を全うな情報として受け入れ可能にする要素として、情報の有効性や現実味、総じていえば reality の高さが重要であることが明らかになってきた。“了₁”を含めたいわゆるアスペクトマーカーは言語記号に reality を与える重要な手段であるが、構文や語彙の中にも reality を与える手段が複数存在し、それらをいかに過不足なく利用するかが中国語文法の基底に流れる重要な原則になっていると考えられる。換言すれば、テンスやアスペクトの問題は、言語記号に reality を与える文法手段の collaboration の中に収斂されていくということである。中国語文法研究の今後の課題は、情報機能に根差した文法記述の方法論の構築であると言える。

<註>

1) “了₁”の意味について税昌錫 2012 は以下のように指摘している。

“了”在事件过程结构中具有标示活动起始、活动终结和遗留状态起始三种事态的功能，具体标示何种事态，则由动词的过程特征来确定。活动终结和遗留状态起始间是互为蕴涵的关系，“了”的活动起始标示功能则可以认为是遗留状态起始的隐喻。可见，以往“完成”“实现”等语法意义的认识不能全面反映“了”的实际情况。

“了”的语法意义具有两面性，动词凸显终结特征时，“了”表“终结”义，动词凸显起始特征时，“了”表“起始”义，动词的起始、终结特征不明确时，“了”的语法意义模糊，为“起始”“终结”两可状态。（税昌錫 2012:49）

本稿は「了₁」の文法的意味に二面性がある」という指摘には賛同しない。「了₁」の文法的意味が非常に抽象的であるために、「完成」「実現」といった既成の語で説明することに限界があるものと考ええる。日本語の助動詞「た」も同様で、一語でこの意味を記述することは不可能である。

2) 本稿における“了₁”に相当する。

3) 存現文もしばしば以下のように他の述語性のフレーズと連続体を形成する。

教室の一角放着一张写字台，那是教师的办公桌。

4) 現場としての reality が無いにもかかわらず安定した表現になるのは、習慣や法則，規則を述べるものやことわざ類である。

车辆行人一律右行。（樊长荣 2014:22）

<参考文献>

樊长荣 「惯常类非现实句中 NP 的有定性特点」，《语言研究》2014 年第 3 期：20－27

黄南松 「试论短语自主成句所应具备的若干语法范畴」，《中国语文》1994 年第 6 期：441－447

沈家煊 「“有界”与“无界”」，《中国语文》1995 年第 5 期：367－380

—— 「再谈“有界”与“无界”」，《语言学论丛》第 30 辑：40－54，2004

税昌錫 「基于事件过程结构的“了”语法意义新探」，《汉语学报》2012 年第 4 期：44－58

王力 《中国现代语法》（1943）商务印书馆 1985 版

袁莉容 郭淑伟 王静 《现代汉语句子的时间语义范畴研究》四川大学出版社，2010

朱庆祥 「从序列事件语篇看“了₁”的隐现规律」，《中国语文》2014 年第 2 期：134－148

木村英樹 「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」，《大河内康憲教授退官記念中国語学論文集》東方書店：157－179，1997

—— 「『持続』・『完了』の視点を超えて——北京官話における『実存相』の提案——」，《日本語文法第 6 巻 2 号》くろしお出版：45－61，2006